

第8章 卒業後の進路

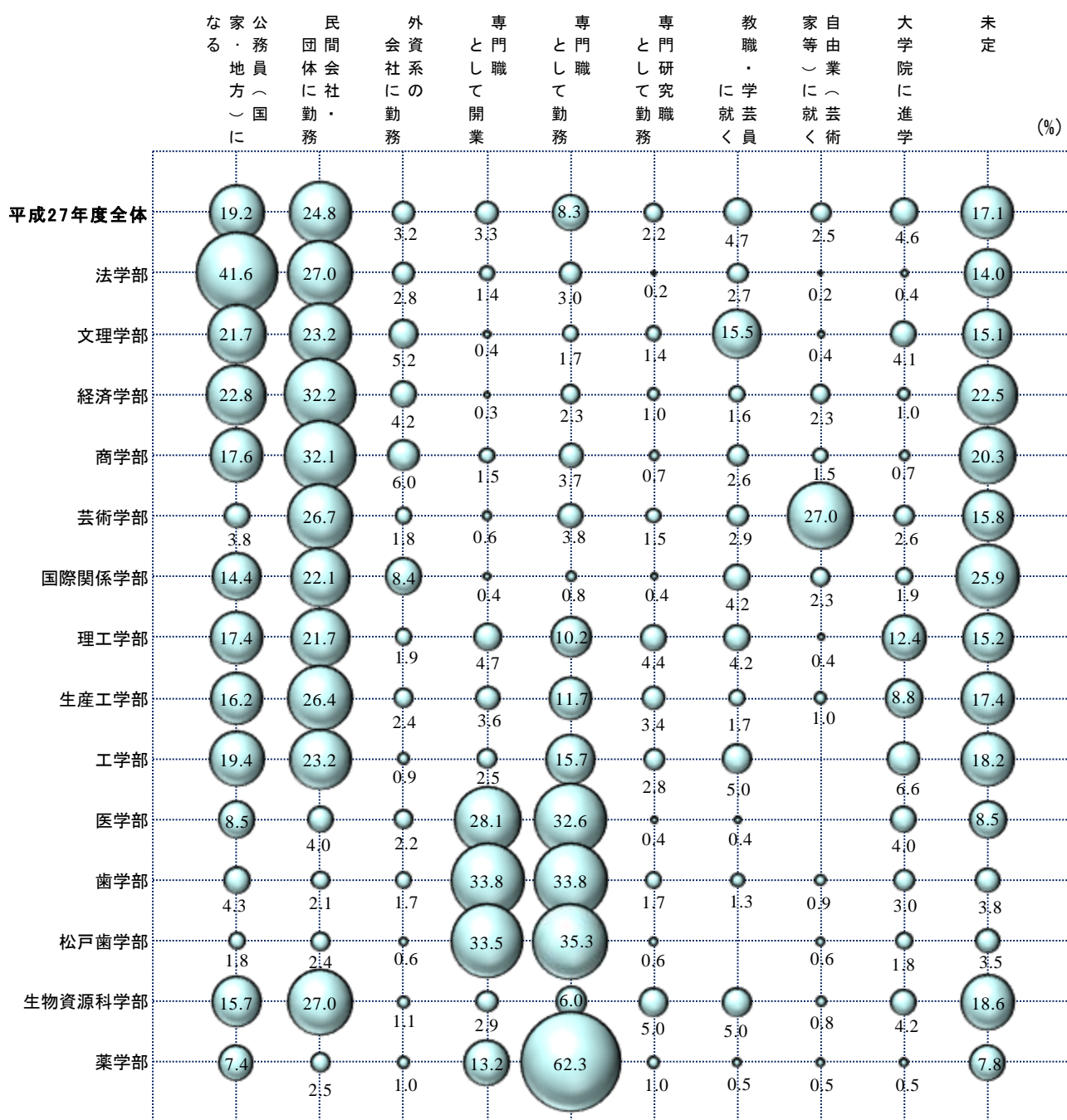
1.最も希望している進路

最も希望している進路は、全体では「民間会社・団体に勤務」、次いで「公務員」。
法学部で公務員志向、医学部で脱勤務医志向が年々強まる。

卒業後最も希望している進路を全体で見ると、「民間会社・団体に勤務」が24.8%で最も高く、「公務員」が19.2%が続いています。学部別に見ると、薬学部で「専門職として勤務」が62.3%、法学部で「公務員」が41.6%と高い点が目立っています。

経年比較を見ると、法学部では「公務員」が平成18年度の28.8%から平成27年度の41.6%と年々増加傾向となっています（文理学部でも同期間に12.2%から21.7%に増）。一方、医学部では「専門職として勤務」が同期間に60.4%から32.6%と年々減少傾向が鮮明であり、公務員や民間に勤務が徐々に増加しています。

図8-1 最も希望している進路(平成27年度全体・学部別)



2.希望進路への具体的な準備

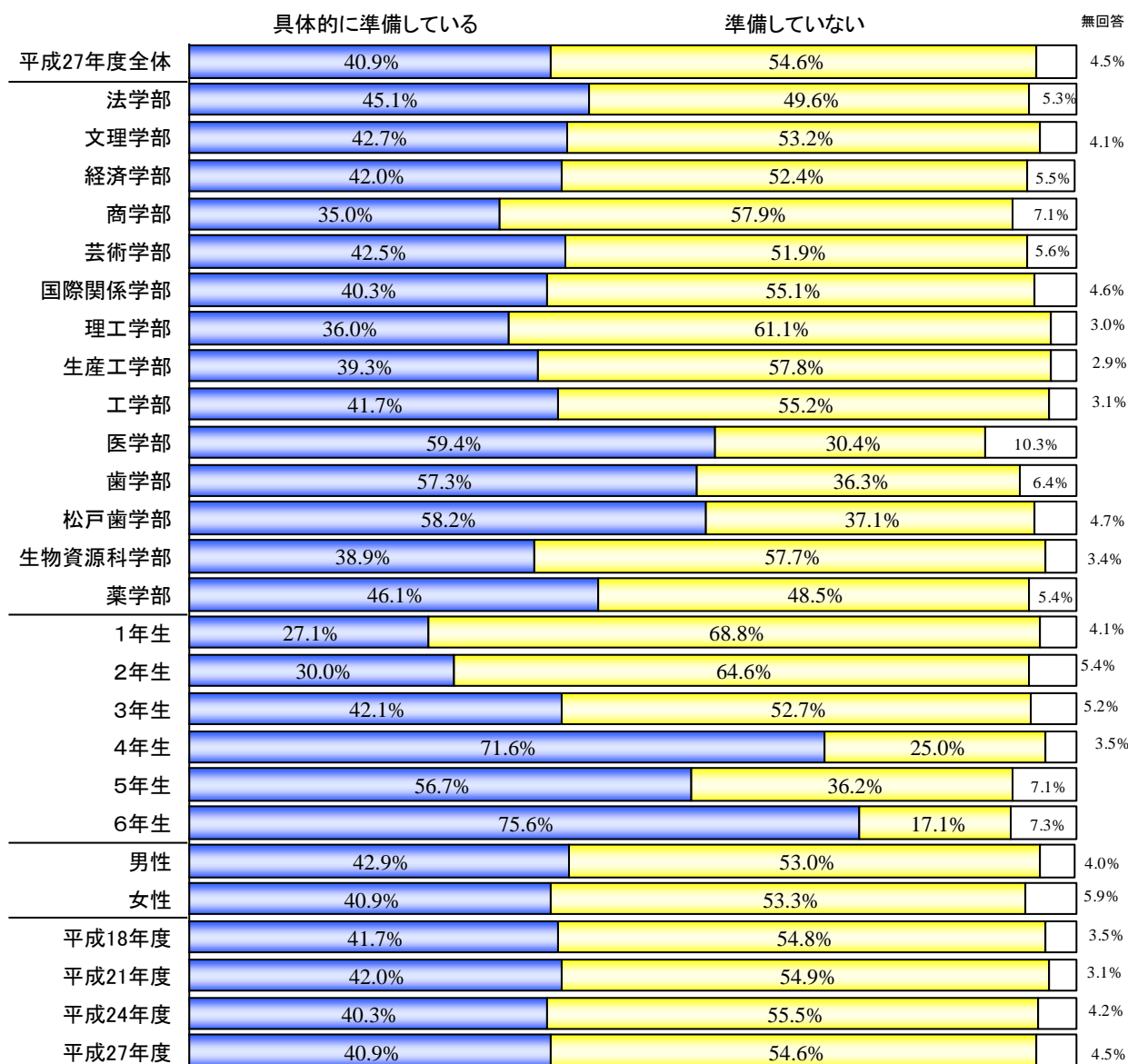
希望している進路について「具体的な準備」をしている学生は全体の4割。
3年次4割、4年次7割で3年前より増。就職支援体制強化の取り組みが後押し？

平成27年6月時点で希望している進路についての準備の有無を全体で見ると、「具体的に準備している」学生は40.9%となっています。

学部別に見ると、「具体的に準備している」学生は医歯系学部で高く（60%弱）、逆に「準備していない」学生の比率は理工学部・商学部・生産工学部・生物資源科学部で60%前後と高くなっています。「具体的に準備をしている」学生を学年別に見ると、卒業年次の4年生で71.6%、6年生（医歯薬系学部・生物資源科学部獣医学科）で75.6%となっています。

平成18年度からの経年変化を見ると、6月時点の準備は全体ではほとんど横這い傾向ですが、歯学部では11.7ポイント増、医学部では7.7ポイント減となっています。直近の3年間では工学部で8.0ポイント増、3年生で5.3ポイント増、4年生で7.4ポイント増となっており、本学の「低学年次からの就職支援体制強化」の取り組みの効果が表れているのかもしれませんが。

図8-2 希望進路への具体的な準備の有無(平成27年度全体・学部別・経年変化)



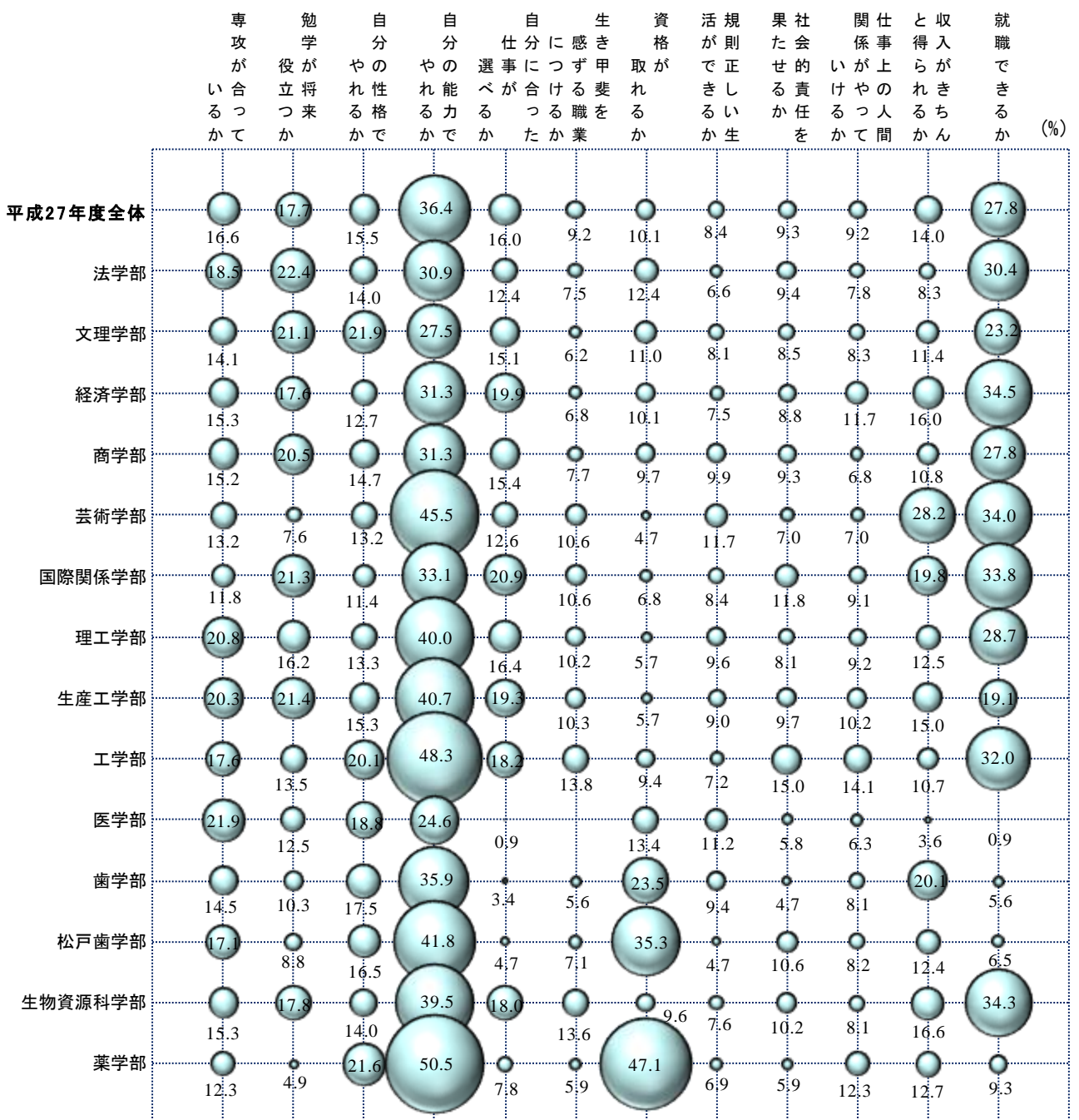
3.将来についての不安

学生が感じている将来の不安は「自分の能力」と「就職できるか」が上位。「能力」の不安は薬学部・工学部・芸術学部、「就職」は経済学部・生物資源科学部等で高め。

学生が感じている将来の不安を全体で見ると、「自分の能力でやれるか」(36.4%)と「就職できるか」(27.8%)が大きく、「勉学が将来役立つか」「専攻が合っているか」「自分に合った仕事を選べるか」「自分の性格でやれるか」「収入がきちんと得られるか」が15%前後で上位にきています。

学部別に見ると「能力」についての不安は薬学部・工学部・芸術学部で高く(約45%~50%)、「就職できるか」は医歯薬系学部で低く(1%~9%)経済学部・生物資源科学部・芸術学部・国際関係学部で34%前後とやや高めとなっています。

図8-3 将来についての不安(平成27年度全体・学部別)



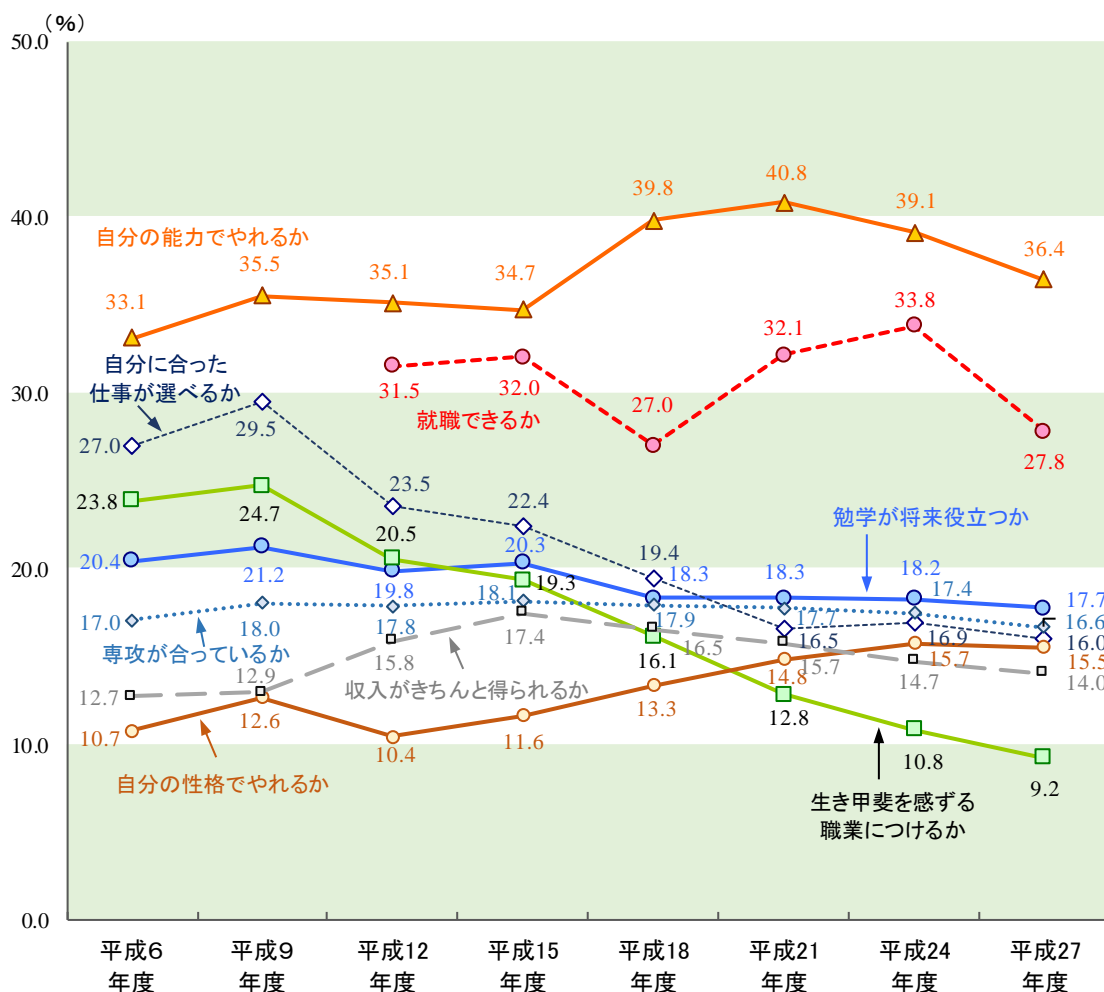
4.将来についての不安—今回上位8項目の経年変化

「自分の能力」に関する不安が減少するも依然トップ。
この3年間で「就職」に対する不安が減少，文理学部・法学部で不安の減少傾向。

学生が感じている将来の不安のうち上位8項目までの経年変化を平成6年度から見ると、「自分の能力でやっつけられるか」という不安が毎回トップとなっています。この「能力」への不安は、平成15年度からの6年間で6.1ポイント増加しましたが、6年前から減少傾向にあります。この間の減少幅が大きい学部は文理学部・法学部・医学部で12ポイント前後減少しています。

「就職できるか」という不安は平成18年度から漸増傾向にありましたが減少に転じ、直近の3年間で6.0ポイント減少しています。この間の減少幅が大きい学部は文理学部・法学部・生産工学部・薬学部で12ポイント以上減少しています。一方「自分に合った仕事を選べるか」及び「生き甲斐を感じる職業につけるか」という不安は、共に平成9年度以降漸減傾向が続いています。この傾向は文理学部・法学部・経済学部・国際関係学部で強く見られます。仕事に生き甲斐等を求めなくなってきたということでしょうか。それとも、そうした学力や適性能力の向上により不安が解消される傾向にあるということでしょうか。「能力」「就職」に関する不安の傾向を考えると、文理学部・法学部では後者の理由が当てはまるのかもしれませんが。

図8-4 将来についての不安(平成27年度上位8項目の経年変化・全体)



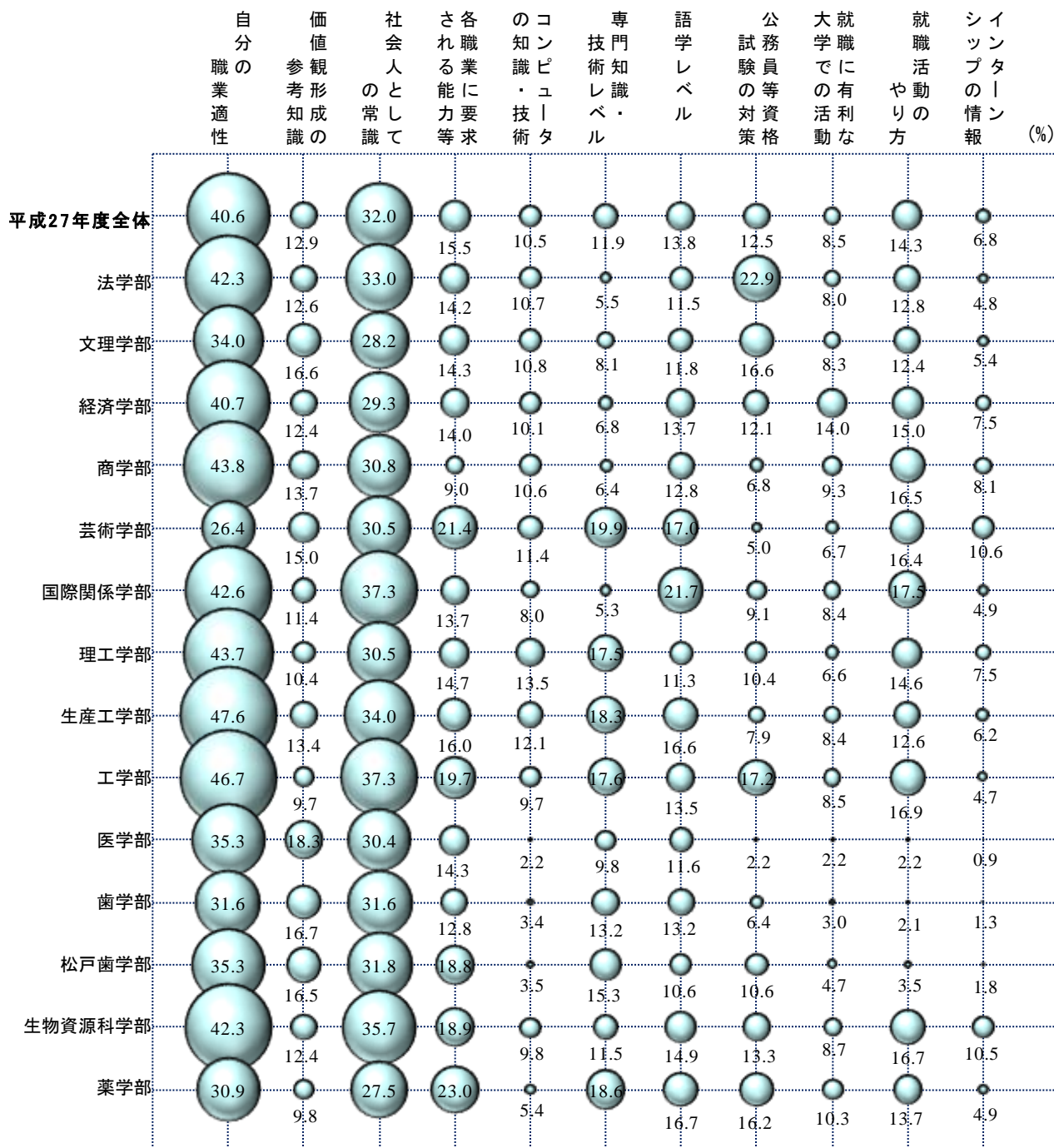
5.進路に関する知りたい情報・知識

卒業後の進路に関する知りたい情報・知識は「自分の職業適性」と「社会人としての常識」。
法学部で「資格試験対策」、国際関係学部で「語学レベル」など、学部間で若干の差。

卒業後の進路に関する知りたい情報・知識を見ると、全学部で「自分の職業適性」（全体では40.6%）と「社会人としての常識」（同32.0%）が高くなっています。

学部別に見ると、法学部では「公務員等資格試験の対策」、国際関係学部では「語学レベル」、薬学部・芸術学部では「各職業に要求される能力等」と「専門知識・技術レベル」が相対的に高くなっています。

図8-5 進路に関する知りたい情報・知識(平成27年度全体・学部別)



6. 進路に関する知りたい情報・知識の経年変化

卒業後の進路に関する知りたい情報・知識は、「社会人としての常識」の増加傾向が顕著。芸術学部・国際関係学部・生物資源科学部・工学部でこの傾向が目立つ。

この項目が調査に含まれた平成6年度からの経年変化を見ると、「自分の職業適性」が毎回トップとなっており、概ね40%の水準で推移しています。「社会人としての常識」は、平成12年度の17.9%から漸増傾向にあり、平成27年度までの15年間で14.1ポイント増となっています（直近の3年間では4.3ポイント増）。一方、「各職業に要求される能力等」は平成12年度の19.9%から概ね漸減傾向にあり、同期間に4.4ポイント減となっています。また、「就職活動のやり方」は平成21年度の19.3%から6年間で5.0ポイント減少し、1年生から実施している就職（キャリア）支援プログラムの成果が表れているものと思われます。

学部別に経年変化を見ると、「社会人としての常識」は、芸術学部・国際関係学部・生物資源科学部・工学部で平成12年度からの15年間で20ポイント前後増加している点が目立っています。

図8-6 進路に関する知りたい情報・知識の経年変化(全体)

